

予算決算常任委員会全体会市長挨拶

(令和2年2月19日(水) / 議場)

おはようございます。

2月市議会通常会議に先立ち、予算決算常任委員会全体会をお開きいただき、誠にありがとうございます。

まず初めに、令和2年度当初予算については、私が大津市長に就任してから間もない期間での編成であることから、市民の方々にお示ししてきた政策に沿った事業や、私が認識してきた課題の解決に向けた事業については、今後、職員との十分な協議と熟慮を重ね、慎重に判断する必要があることから、次に編成する補正予算において反映するものとし、経常的な経費や既に着手している継続費を中心に「骨格予算」として編成いたしました。その上で、市政の推進上、早期に着手すべきと判断したものは、積極的に予算に盛り込むこととしており、実効ある予算編成ができたものと考えております。

さて、この度、提出しようとしている令和2年度一般会計

当初予算において、まず、歳入についてのうち、個人市民税並びに固定資産税は、それぞれ増収を見込む一方、法人市民税では先の税制改正、及び市内企業が減益見通しにあることを踏まえ、減収見込みとしており、この結果、市税収入は、前年度に比べ、ほぼ横ばいとなったことに対して、地方消費税交付金については、消費税率改正効果の通年化により、約7億4千7百万円上回る64億2千7百万円を、地方交付税では1億100万円上回る101億8千9百万円をそれぞれ見込んだものです。

次に、歳出については、投資的経費において、令和2年度から3年度にかけてピークを迎える環境美化センター及び北部クリーンセンターの整備費をはじめ、合併建設計画に掲げ、積極的な要望活動を繰り返して、ようやく実現の方向が見えた湖西線比良駅のバリアフリー化に対する建設補助金、関係機関との連携等により速やかな事業推進が求められる市道幹1009号線や市道幹2028号線の整備費、さらには特別養護老人ホーム施設整備補助を措置したものです。

また、通年化する幼児教育・保育の無償化に関連する認定こども園をはじめとする施設型給付等支給費や、障害福祉費、

生活保護費などの扶助費に対しては適切な給付見込みの下で所要額を措置するとともに、地方独立行政法人市立大津市民病院に対する運営費負担金については中期計画に沿った予算を確保しました。

私が掲げる「夢があふれる大津」の実現を目指すとともに、令和2年度は、大津市総合計画第1期実行計画の最終年次にもあたり、計画の着実な推進はもとより、行政の継続性について一定の配慮とともに、健全な財政運営の堅持に意を払ったところではあります。

これらの結果、一般会計総額は、前年度に比べ約3億7千万円下回った1,130億9千万円となりました。

また、各特別会計においては、(仮称)堅田第二地域包括支援センターの開設運営に向けた経費を盛り込んだ介護保険事業特別会計のほか、堅田駅西口土地区画整理事業特別会計を令和元年度末に閉鎖させることから、合計9会計で総額685億9,940万8千円を、3つの企業会計では、

総額400億9,957万1千円を措置しようとするもので
す。

それでは、この後、各部局の担当職員からご説明申し上げますので、よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。